

2022年8月17日発行

神奈川県イグレンの活動状況を伝える機関紙

神奈川県イグレンニュース〈第230号〉

発行：神奈川県異業種連携協議会（議長 金究武正）

発行責任者：専務理事 芝 忠 編集：事務局長 愛賢司

〒231-0015 横浜市中区尾上町580 神奈川中小企業センタービル7F

TEL/FAX 045-228-7331 <http://www.kanagawa-igren.com>

- 【川崎異業種研究会通信】2022年通常総会報告 (1頁)
- インターモールド2022名古屋の報告 まんてんプロジェクト事務局 (3頁)
- 第83回アジアビジネス探索セミナー（2022年5月20日開催）報告 (5頁)
 - 1. ミャンマー現地メディア経営者の視点
 - － ASEAN, 日本財団が進めるクーデター解決策はうまく進むのか －
ミャンマージャポン (株) CEO 永杉 豊
 - 2. 事例報告 ミャンマーで工場を運営して見て解かるクーデターの現実
 - － 物流、チャット安、為替政策の変更、資金の出入管理、雇用確保 －
(株) 小島衣料 オーナー 小島 正憲
 - 3. 2021日本企業のアジア投資状況
- 逸話山盛りの上海ロックダウン劇場 アジア探索者 増田辰弘 (7頁)
- 第94回西湘サロン開催のお知らせ9月12日（月）午後6時30分～8時00分
「アートがむすぶハートとハート」 (8頁)
アートコミュニケーションズ NPO 法人湘南芸術研究所 理事長 山田 裕子様
- 第58回海老名サロン開催案内 2022年9月16日（金）午後3時より
 - 1. インターモールド会場で垣間見える新技術の動向
 - 2. 「研究開発から生産・販売・輸出を自社展開する小さな世界企業」

【川崎異業種研究会 2022年度通常総会等を開催】

川崎異業種研究会では、5月19日（木）当所にて、2022年度通常総会並びに講演会を、感染防止策を講じた会場とオンラインによるハイブリッド形式で開催した。

通常総会では、司会の小林副会長による開会宣言後、菅原会長より挨拶がなされた。2022年度事業方針として「川崎異業種研究会の会員増強と価値増強」が示され、事業内容として「会員交流事業の促進」「会員増強活動の促進」「企業間連携・産学官連携事業への促進」の3つの骨子について述べられた。

続けて、菅原会長が議長に就き議事に入り、第1号議案「2021年度事業・収支決算報告」第2号議案「2022年度事業計画・収支予算案」、第3号議案「役員改選」について諮られ、全会一致を以て承認された。議事終了後、来賓の草壁会頭よりご挨拶を頂き総会を終えた。



【菅原会長より挨拶（通常総会）】



【草壁会頭より来賓挨拶（通常総会）】

総会に続いて『日中異文化コミュニケーションの摩擦をことばの「かくれた次元」からみる～最新の中国情報を交えて』と題して、NHK中国語会話など、ご活躍中の早稲田大学文学学術院教授の楊達氏による講演会が行われた。

楊教授は中国出張から帰国後、新型コロナウイルス感染症対策に伴う自宅待機のため、当日はオンラインにて講演。中国におけるゼロコロナ政策の下、ご自身が経験された28日間にも及ぶ隔離生活の実体験をはじめ、中国と日本との言葉や距離感の違いなどについて説明がなされた。参加者一同、日中間ビジネスや中国人との交流に役立つ異文化コミュニケーションについて知る貴重な機会を得ることができ、大変有意義な講演会となった。

講演会終了後、懇親会を開催し、参加者同士交流を深めるとともに活発な意見交換が行われた。



【楊教授によるオンライン講演】



【参加者による活発な意見交換（懇親会）】

インターモールド2022名古屋の報告

まんてんプロジェクト事務局

インターモールド2022名古屋が7月6日(水)から7月9日(土)までポートメッセ名古屋で開催されました。名古屋での開催は2019年以来3年ぶりです。「まんてんプロジェクト」では、プロジェクトの取り組みや会員企業の技術を紹介をする場があることで呼びかけを行い、(株)平本精機、新日産ダイヤモンド工業(株)、鈴幸商事(株)、大同工機(株)、(株)東栄超硬、(株)プライオリティ、(株)トクピ製作所、(株)NAKANO、ユシロ化学工業(株)、第一塗装工業(株)、(株)開明製作所、金属技研(株)の12社が出展しました。

展示ブースでは受付の壁にディスプレイが配置され、動画の提供があった3社とタレントのサンドイッチマンが進行をして放映されたテレビの「宇宙エレベータ」を流しました。来場者は前回よりも少ない感じでしたが、意見交換や情報交換行なわれ、ビジネスに結びついた案件もありました。今回の4日間の来場者は、インターモールドや金型展等合わせて計20,982名との報告がありました。

【展示会場の入り口】



【まんてんプロジェクトのブースの様子】



【まんてんプロジェクトのブースの様子】



【まんてんプロジェクトのブースの様子】



会場での動き

会場では自動車産業の「CASE」の取り組みや製造業の「DX」、「AM」によるものづくりなど頭文字や略称をもとにした造語が特別講演会や案内版に多く見られました。詳細については、いろいろな場で知るようになると思いますが、頭文字について簡単にふれてみたいと思います。

・CASE(読み方はケース)

一般に「次世代自動車はEV車」と捉えられていますが、新たな自動車業界の取り組みとして「Connected: コネクテッド」「Autonomous: 自動運転」「Shared&Service: シェアリング・サービス」「Electric: 電動化」の四つを柱にして次世代自動車に取り組むべきとして、これらの頭文字をもとにした造語です。

・DX(Digital Transformation)

企業がデジタル技術(IT)を利用して事業の業績や事業形態、ビジネス、生活の形などを根底から変化させるという意味合いで用いられています。

・AM (Additive Manufacturing)

従来から積層造形法や 3D プリントと呼ばれるもので、素材を積層してものを作り出す技術の総称です。2020年にJIS規格B9441として「付加製造(AM)―用語および基本概念」として規格化されました。

第83回アジアビジネス探索セミナー（2022年5月20日開催）報告

1. ミャンマー現地メディア経営者の視点

- － ASEAN, 日本財団が進めるクーデター解決策はうまく進むのか －
ミャンマージャポン（株） CEO 永杉 豊

● 依然混乱が続くミャンマー情勢

ロシアのウクライナ侵略戦争で報道が少なくなったが、ミャンマーの情勢も依然厳しい状況にある。ミャンマー国軍は依然国内を押さえきれていない。地方部の多くは民主派の国民統一政府（NUG）、少数民族側が押さえている。最近、あまり日本ではニュースにならないが国軍による地方への残虐行為が進んでいる。それも村ごと焼き尽くすことなど信じられない蛮行が行われており、人権問題の観点からも大変な問題である。我々はもう少しミャンマーの動きにも注目する必要がある。

経済面から見ると、市場からUSドルがなくなる。また、現地通貨チャットも札を印刷していたドイツのイーゼック社が撤退し新規発行出来なくなった。外貨が不足し輸入も出来なくなっている。中央銀行が、4月3日から国内居住者が海外から取得した外国通貨を1営業日以内に現地通貨チャットへの兌換を義務付ける通達を突然出した。まさに経済は破綻しつつある。企業活動や市民生活は甚大な影響を受けている。こんな中ミャンマー国軍は自分達の巨大な利権を守ることにひたすら汲々としていて国民のことなど考えていない。

● NPOミャンマー国際支援機構（MIAO）の立ち上げ

現在ミャンマーへ外国からの資金や物資の寄付、支援をしてもミャンマー軍がかすめ取る。あるいは入れ替える。ミャンマーへの支援は全体の1割にも満たない。ミャンマー軍とその関係者のためのものであるのが現実である。そこで、これを防ぎ真に世界からのミャンマーへの支援が国民に行き渡るようにするため、この度「NPOミャンマー国際支援機構（MIAO）」を立ち上げる。多くの支援をいただけるならありがたい。

2. 事例報告 ミャンマーで工場を経営して見て解かるクーデターの現実

- － 物流、チャット安、為替政策の変更、資金の出入管理、雇用確保 －
（株）小島衣料 オーナー 小島 正憲

● 混乱のなかでもなんとか工場は操業

ミャンマー情勢であるが、コロナは直近40日で死者ゼロ、ヤンゴン市内ではほとんどマスクなし落ち着いている。治安は地方での衝突はあるが、クーデター直後に比べると沈静化している。市民の移動が自由になってから会社の離職者が増えている。

電力事情は、大変悪く政府からは20%供給、残りの80%は自家発電である。ガソリンは半年前に比べて3倍に値上がりした。物価は1.5倍から2倍に値上がりした。

税関は、普通に通関してくれるが、ライセンス等の手続きで有効期間が短くなった。港湾、船舶は普通に動いているがキャンセル、遅延は発生している。

外貨は入金から1ヶ月後には必ずチャットに換金しなければならない。チャットレートは現在1ドル1850チャットで現地で製造し輸入する立場では条件は良くなった。

物流は、国内はタイ国境行きのアジアロード以外は輸送可能である。AIRもブッキングすれば大丈夫だが、料金は半年前に比べて倍以上になっている。

● 編集後記

今回のセミナーは大変印象的なものであった。永杉豊さんが的確なマクロのミャンマー情勢を報告されたのに対し、小島正憲さんはそんなミャンマー情勢を踏まえながら、いかに現地の中小企業が生き残るかという適格なミクロの情報が報告であった。森を見る、しかし木も見る。両方必要なのである。（増田）

2021年の日本企業のアジア投資状況

— 明らかに変わった日本企業のアジア投資の状況 —

アジアビジネス探索者 増田 辰弘

日本企業の2021年の日本企業のアジア投資は、前年比8%増の9兆8678億円となった。コロナ禍の影響で急激に落ち込んだ2020年の反動増という側面もあるものの、平年ベースの10兆円に近付いた。アジア投資は少なくとも表面的には積極的に実行されたと言って良い。少なくともいうのは、アジア投資のなかでシンガポールと香港への投資で全体の63%を占めるからだ。製造業の投資ではベトナムとタイに集中するような投資形態となった。

このようにコロナ禍で日本企業のアジア投資の動向が明らかに変わったと言って良い。その大きな点はシンガポールを軸としたM&A案件、成長企業への投資、買収案件が急増したこと、製造業については中国、韓国、台湾へはその国への市場に合わせたハイテク業種での投資、輸出拠点への投資はベトナムとタイへ集中する傾向が強まった。

逸話山盛りの上海ロックダウン劇場

アジア探索者 増田辰弘

ほぼ2カ月ぶりに上海のロックダウンが実質解除となったが、この間の状況を現地の友人に聞いたところ、大変失礼な言い方だが、おもしろく傑作な逸話が山盛りとなった。

例えば、3年ぶりに友人宅を訪ねた直後にロックダウンに遭い、否応なくその友人と2週間も一緒に暮らすことになった。もっと切実なのは、ある中華料理店の配達員。出前で客先に向かい、わずか5分差でロックダウンに遭遇。その地区で2週間暮らす羽目になった。これが小区（居住区）で感染者が1人出るともっと大変である。例え陰性であってもその地区の人はすべて隔離される。隔離先は日を追うごとに上海市内から遠くなる。何時間もバスに乗せられて知らない街のホテルに入れられる。

こんなことに巻き込まれては大変と日本に帰ろうとしても、まず小区管理委員長の空港までの外出許可が得られない。例え許可を得ても地下鉄やバス、タクシーが止まっていて空港までの足がない。やむを得ず白タクを頼むと、運賃が2300元（約4万4000円）と一頃の上海から日本までの格安航空チケット代くらいはかかる。

上海港には現在も多くのコンテナ船が滞留している。これは税関や荷捌きは機能しているが、トラック輸送が停滞しているため輸出入貨物の受け入れ能力が低下しているためだ。

深刻な事態も起きた。これはハルビンでの話だが、コロナで家賃が払えない借主に業を煮やした家主が、借主の持ち物を店の外に投げつけて店に鍵をかけてしまった。これに絶望した借主は抗議の意味を込めてこの商店の前で焼身自殺した。このニュースが大きく取り上げられたため、上海では強引な取り立ては起きなかったようである。多くの中小企業は収入がないのに社員の給料、家賃の支払いに苦労していることがうかがえる。

一部の工場で操業の許可が出ても、それは工場を隔離してという条件付きだ。つまり社員は全員、工場で泊り込みになる。工場にはそれほど宿泊設備や寝具があるわけではない。会議室も食堂も総経理室も寝室になる。急ぎ手配した寝具の置き場所にも苦労する。

上に政策があれば下に対策がある。中国人はこれまで、さまざまな政策に巧みに対応してきたが、コロナの対策には、まだまだ四苦八苦しているようである。

(週刊BCN VOL 1926 より転載)

地域の幅広い人材交流を目指した「神奈川新産学公交流サロン」

第94回西湘サロン開催のお知らせ

神奈川県異業種連携協議会（イグレン）事務局

〒231-0015 横浜市中区尾上町5-80 神奈川中小企業センタービル7階

【日時】：2022年9月12日（月）午後6時30分～8時00分（開場6時）

【場所】：おだわら市民交流センターUMECO (TEL:0465-24-6611)

【会費】：参加費 500円（当日）

1. 話題： **アートがむすぶハートとハート**



アートコミュニケーション

NPO 法人湘南芸術研究所 理事長 山田 裕子様

芸術作品を見るだけより、さらに進んだ体験を提供し、その時間を共有しようというのがアートコミュニケーションです。百聞は一見にしかず、一験は百見にしかず。そこで、川崎の公立中学、高校にて美術科家の講師もされ、国内外のアートフェスティバル等にも参加し活躍されている山田様から、ワークショップ等を通じアートコミュニケーションを体験させていただきます。

2. 場所



JR 小田原駅東口より徒歩約2分です。

住所：小田原市栄町一丁目1番27号(駅東口駐車場1階)
(TEL :0465-24-6611)

参加申込

E-mail yoshiike@maple.ocn.ne.jp

吉池

氏名	(参加人数： 名)	所属・役職	
住所		電話番号	()
メールアドレス		FAX番号	()

第58回海老名サロン開催

日時 2022年9月16日（金）午後3時より

会場 神奈川中小企業センター6階大研修室

【報告】

1. 「インターモールド2022名古屋」報告 （15:00～15:50）

— 展示会場で垣間見える次世代技術への動向 —

まんてんプロジェクト専務理事愛恭輔氏

金型関連技術日本最大級の見本市「インターモールド名古屋」が7月6日～9日の期間で開催されました。会場では、新たな自動車業界の取組みを表現する「CASE」、最近よく目にする「DX」、素材を積層してモノを作り出す技術の総称である「AM」等の新しい言葉を多く目にしました。そうした「新造語」によって表されている技術の進歩や意味合いを考えてみたいと思います。

2. 「研究開発から生産・販売・輸出を自社展開する小さな世界企業」

— 界面化学で未来を拓く コロナ禍でも設備増強 —

株式会社ミズホケミカル代表取締役根津祐史氏

（16:00～16:50）

創業以来、常にオリジナル製品の開発に力を入れ、オンリーワン経営を目指しています。

- ・ 自社開発によるシリコーン製品・シミ抜き剤・ドライクリーニング洗剤を全国に提供。
- ・ 世界中の縫製工場でミズホが開発した接着芯地プレス機のクリーナー等を使用しています。
- ・ 機能性飼料及び飼料添加物としてミズホの液体ビタミンが牛・豚、鶏、養殖魚の栄養強化に使用。
- ・ 界面化学のニッチ製品開発力を中核技術として、新規事業にとりくみます。

参加費（資料費等） 1,000円

ご出席 （ご本人以外に参加される方の氏名・所属・TEL）

愛 070-4478-1902 E-mail aikenji1024@gmail.com